

IMPERIALSTAR



Assembly Manual

組み立て説明書

Manual de montaje

ENGLISH

1. Assembling the Bass Drum	4
2. Assembling and Adjusting the Drum Pedal	5
3. Setting Up the Drum Throne	5
4. Setting Up the Snare Stand and Snare	6
5. Setting Up the Tom Holder and Tom Toms	6
6. Assembling and Setting Up the Floor Tom	6
7. Assembling and Adjusting the Hi-Hat Stand	7
8. Assembling the Cymbal Stand	7

日本語

1. バスドラムの組み立て	8
2. ドラムペダルの組み立てと調整	9
3. ドラムスローンのセッティング	9
4. スネアスタンドとスネアのセッティング	10
5. タムホルダー、タムタムのセッティング	10
6. フロアタムの組み立てとセッティング	10
7. ハイハットスタンドの組み立てと調整	11
8. シンバルスタンドの組み立て	11



ESPAÑOL

1. Montaje del bombo	12
2. Montaje y ajuste del pedal	13
3. Montaje de la banqueta	13
4. Ajuste del soporte de la caja y la caja	14
5. Ajuste del soporte del Tom y de los Toms	14
6. Montaje y ajuste del goliat	14
7. Montaje y ajuste del soporte del charles	15
8. Montaje del soporte del plato	15



この度はTAMAドラムセットをお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

本誌はドラムセットの組み立て方を初心者の方にもわかりやすく説明した解説書です。ドラムに限らず、楽器自体を理解することは、その上達への第一歩ともなります。組み立て前に本説明書をよく読んで、より叩きやすくセットし練習してください。

1. バスドラムの組み立て

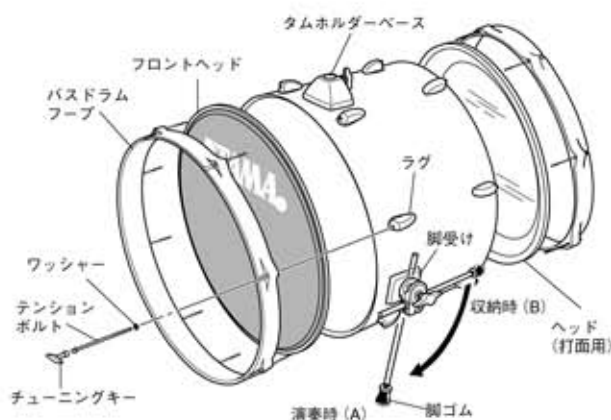


図 1-1A



図 1-1B

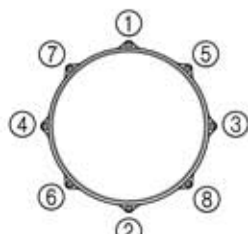


図 1-1C

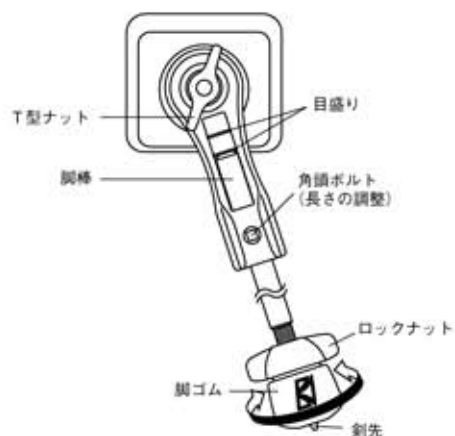


図 1-2A



演奏時(A)

図 1-2B

収納時(B)

バスドラムのヘッドを張ります。

1-1. ヘッド、フープの取り付け

1-1A. ACCU-TUNE HOOP

アキュチューン・フープは、タムタム用フープと同様の感覚でお使いいただける、TAMA オリジナルの樹脂製フープです。図 1-1A に示されたとおり、ヘッド、フープの順にシェルにのせて、ワッシャーとテンションボルトをフープに直接入れて組み立ててください。

アキュチューン・フープにはドラムペダルをより確実に取り付けるための溝が設けられています。この溝の部分にはステッカーが貼られていますので、打面側のヘッドを張る際にはこの溝がバスドラムの下側になるように注意してください。(図 1-1B)

注意

* ヘッドを張る際には、一箇所だけを強く締めないで下さい。最初はチューニングキーを使わず、指で締められる程度に各ボルトを締め、そのあとチューニングキーを使って図 1-1C のように対角線の順に少しずつ均等に締めるとうまくいきます。

* 必要に応じてフロント側のヘッドには穴をあけてください。中心から離れたところに小さい穴をあけると太い音が、逆に中心に大きな穴をあけるとサスティーンの短いアタックの強い音になります。

1-2. 脚受けのセッティング

1-2A. 角度と長さの調整

脚棒を脚受けに取り付け、バスドラムをセットします。図 1-2A のように角頭ボルトを締めると脚棒の長さが、T型ナットを締めると脚棒の角度が変えられます。脚棒受けには目盛りが付いているので、長さを調整する際、参考にしてください。固定された状態から約四回転T型ナットを締めると自由に回転しますが、内部のつめによってA、Bの位置が決まりますので図 1-2B のように演奏時はA、収納時はBの位置にあわせて固定してください。

脚棒の長さは左右均等になるようにし、バスドラムの下側に手のひらが入る程度にするとスネの良い音が得られます。

1-2B. スパイクの調整

図 1-2A のように、脚ゴムと剣先が選択できます。床の状態にあわせて調整して下さい。ロックナットを締めると脚ゴムの位置を固定できます。

注意

スパイク(剣先)は床面を傷つけます。床を傷つけてはいけない場所で演奏するときは脚ゴムから剣先が出ないように注意してください。また、厚手のカーペット等を床に敷くと傷の防止になります。

2. ドラムペダルの組み立てと調整

ドラムペダルを組み立て、バスドラムに取り付けます。



図 2-1

ドラムペダルの組み立て

ラジアスロッドをフレームの穴に差し込み、スプリングフックを図2-1のようにローラーに掛けます。

* ビーターの取り付け

ビーターを写真のように取り付け、ビーター固定ボルトを締めて固定します。ビーターの長さはバスドラムヘッドの中心か、やや上にあたるように調整して下さい。



図 2-2

* スプリングテンションの調整

スプリングテンションを調整することによって、ペダルの踏み心地を調整することができます。図2-2のようにロックナットを緩めた後でロックナットを押し下げると調整ナットが回る仕組みになっています。好みのテンションが決まったらロックナットを再び締めてください。

* ビーター角度の調整

図2-3のようにビーター角度調整ボルトを緩めると、ビーター角度とフットボードの角度を連動して調整できます。好みの角度がきまったら調整ボルトをしっかりと締め固定します。

* ペダルの取り付け

フープクランプでバスドラムフープを挟むようにして、ペダルをバスドラムに固定します。演奏中の緩みを防ぐためにフープクランプのT型ボルトはしっかりと締めてください。



図 2-3

3. ドラムスローンのセッティング



図 3-1

ドラムスローンの脚部とシート部を組み合わせせてセットします(図3-1)。三脚部は座ったときに安定するよう十分に開いてセットします。高さは座ったときに膝が直角に曲がる程度が一般的ですが、好みに合わせて調整して下さい。また演奏中にスローンが下がるのを防ぐために、高さ調整部のメモリーロックは確実に締めてください。

注意

ドラムスローンはセットの種類によって別売りとなるものがあります。

4. スネアスタンドとスネアのセッティング



図 4-1



図 4-2

4-1. スネアスタンドの組み立て

図4-1のようにスネアスタンドを組み立てます。Aのナットはバスケット部の開き具合を調整するためのものです。ナットを右に回すにつれてバスケットが開きます。三本のアームでしっかりとスネアドラムを支えられるように調整して下さい。また、スネアの高さや角度は好みに応じて調整して下さい。スネアドラムの位置は、ドラムスローンに座ったときに体の正面になる位置が基本です。

4-2. SWIVELING BASKET

スネアスタンドは、アーム部が下側のフープのフランジ(テンションボルトが通っている部分)に接触しないように、3本のアーム部の間隔が一箇所広がるように設定されています。この間隔が広い部分にストレイナーがくるようにセットして下さい。また、図4-2の角頭ボルトを緩めるとバスケット部が自由に回転しますので、演奏中のストレイナーの位置を自由に調整することができます。好みの位置が決まったら再度ボルトを締めて固定します。

5. タムホルダー、タムタムのセッティング

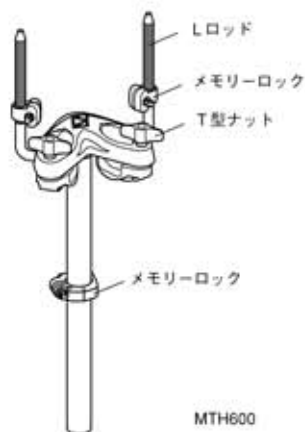


図 5-1

タムホルダーをバスドラムのタムホルダーベースに挿入し、固定します。表紙の写真のように個々のタムブラケットをLロッドに固定して下さい。TAMAのタムホルダーはボールロッド方式を採用していますので、タムタムの角度はT型ナットを緩めるだけで自由に調整できます。好みの角度が決まったら再びT型ナットを締めて固定します。タムホルダーのパイプ部やLロッドに付属のメモリーロックを併用すると、より固定力が高まるだけでなく次回からのセッティングがすばやく行えます。

6. フロアタムの組み立てとセッティング



図 6-1

6-1. フロアタムの組み立て

バスドラムと同様にヘッド、フープの順にシェルにのせてヘッドを張ります(図6-1)。打面と裏面用の付属ヘッドは厚みが異なりますので、組み付け済みのタムタムのヘッドに印刷されたマークを見て確認して下さい。

6-2. フロアタムのセッティング

- * 三本の脚棒を脚受け金具にとりつけます。安定性を良くするために脚棒の曲がった部分は円周に対して直角に出るように気をつけてください。
- * 位置決めをする際には一本の脚が自分の右足(左利きの場合は左足)の脇にできるように置き、その脚の長さで傾き具合を調整します。高さはスネアドラムと同じか、やや低めにするのが一般的です。

7. ハイハットスタンドの組み立てと調整

7-1. ハイハットスタンドの組み立て

- * まず三脚部を開き、ラジアスロッドをフレームの穴に差し込んで下段部を立てます。
- * テンションロッドから一旦クラッチを外し、テンションロッドを下段に取り付けます。
- * 上段パイプを下段パイプに挿入し、好みの高さで固定します。
- * クラッチにハイハットシンバル(上)を取り付けます。図7-2のようにまずクラッチの下側のナットとフェルトを外し、二枚のフェルトの間にシンバルを挟むようにして固定します。また、ロックナットの位置を調整することによってクラッチに対するシンバルの締め具合を調整できます。ハーフ・オープン音をよく使う場合にはシンバルを緩めにセットしたほうが音がきれいにつながります。
- * ハイハットシンバル(下)をボトムの上にセットした後、クラッチに取り付けたシンバル(上)をセットします。ペダルを踏み込んでいない状態で上下のシンバルの間隔が3cm～5cm開くようにセットするのが一般的です。

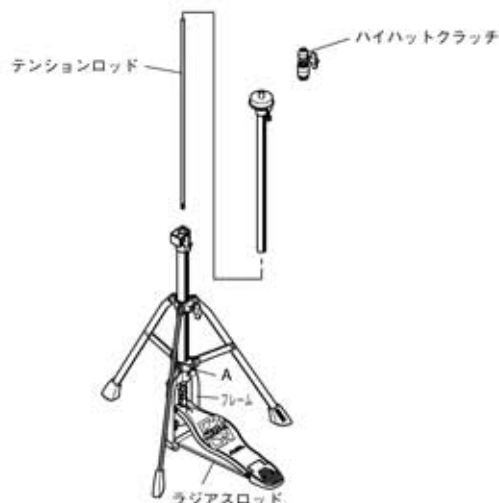


図 7-1

7-2. SWIVELING FOOT

- * 角頭ボルトAを緩めることで三脚部が自由に回転します。別売りのツインペダルを使用する際に便利な機能です。

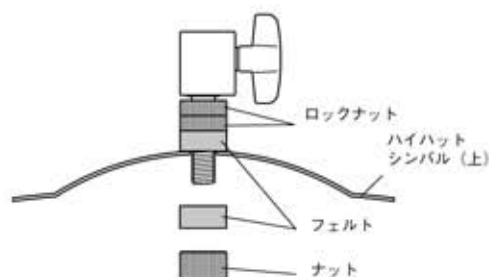


図 7-2

8. シンバルスタンドの組み立て

三脚部を開き下段部を立てた後、中段、上段を挿入し組み立てます。シンバルは図8-1のように上部のティルター部の二枚のフェルトに挟むようにセットします。また、ブームシンバルスタンドには図8-2のようにストレートスタンドとしても使える“コンバーティブル・ティルター”を採用しており、ブームアームを上段パイプの中に収納できる設計です。

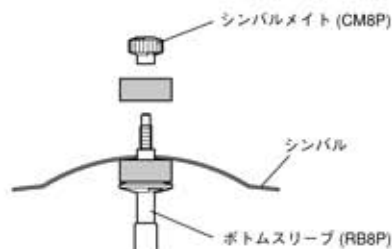


図 8-1



図 8-2

注意

- * 図8-1の通り、シンバルスタンドの機種によってティルター部の部品が異なります。TAMAではシンバルの保護を第一に考え、樹脂製のシンバルナットやスリーブを使用しています。これらのシンバルに直接触れる部分は摩耗しますので、シンバルへのダメージを防ぐために時々点検してください。ボトムスリーブRB8Pは上下にスリーブがあり、片方が摩耗し切れた際には応急的に裏側が使える設計になっています。
- * ブームスタンドはお買い上げのドラムセットに含まれていない場合があります。

 **TAMA**®